



2025. November



外国人介護人材の“リアル”をお届け！

鳥取県特集 “人の温かさに支えられて” VOL.02 外国人職員が出会った 鳥取県の介護と人のつながり

(通巻VOL.18)

外国人職員が“定着できる県”へ！
そのヒミツをここでお伝えします

『Heidy's Diary 鳥取県特集』では、本事業の利用有無にかかわらず、県内で活躍する外国人介護人材や受入れ法人様をご紹介します。



ヒマンシュさん

2年目になる頼れる
一期生の先輩！
日本に来て約半年の3名
日々学びを重ねながら、鳥取県での
生活を充実させているようです！

今回伺ったのは...
インド出身職員
の皆様



ラウルさん



シヴァニさん



クリシュナさん

介護は楽しい！

4人とも介護の仕事は初めてですが、全員が「介護は楽しい！」と笑顔で話してくれました。言葉の壁や文化の違いで苦労することもあるそうですが、それを乗り越える度にやりがいを感じているようです。「利用者さんと話したり、一緒に笑ったりできる時間が嬉しいです。」「わからないこともあります、他の職員さんも利用者さんとも優しく教えてくれます。」チームワークを大切に、困ったときにはお互いに助け合う雰囲気があると感じました。「質問しやすい環境なので、安心して仕事ができます。」と教えてくれました。誰もが安心して働ける職場だからこそ、みんなの成長が早く、笑顔が絶えないのだと思いました！



利用者さんとの
ツーショット！

父がよく日本のことを教えてくれた

「父が昔、日本で働いていて、よく日本の話を聞かせてくれました。その話を聞くうちに、自分も日本に行きたいと思うようになりました。アニメも好きで、日本語は独学で勉強しました。」とお話をしてくれたヒマンシュさん。ラウルさん、シヴァニさん、クリシュナさんは「日本は、思っていた通りきれいで、鳥取県の人々もとても優しいです。」と揃って語っていました。そして、みんなアニメ鑑賞という共通の趣味を持っているそうです！憧れを行動に移すみなさんの姿勢、本当に素晴らしいです！夢を実現するために努力し続ける姿勢に、私も励まされました！



利用者さんと仲いいですね～

人材が
働く

鳥取県の介護施設責任者に質問！

“採用面接の時に大事にしていることは？”

答えて
下さったのは...



外国人支援担当
れしぶさん

「最初からミスマッチの可能性を防ぐことです」

面接の際に給料などの待遇面や生活環境、仕事内容についてできる限り細かく説明をしました。納得した上で来てもらうことで、ミスマッチをなるべく減らすように努めました。

さらに詳しいインタビューは裏面へ

鳥取県は自然豊かで、人々も優しい場所

「日本に来る前に鳥取県を知っていた？」と聞くと、ヒマンシュさんだけが「親戚が鳥取県にいたので知っていた」と答えてくれました。他の3人は、求人を見かけに鳥取県について調べるうちに、「自然が豊かなところ」という印象を持ったそうです。そして実際に住んでみると、そのイメージ以上に過ごしやすく、人のやさしさを感じる場所だったと言います。「人が優しく、ご近所さんと一緒に買い物へ行ったり、おしゃべりしたりしています。休日には鳥取砂丘や海へ行って気分転換するのが楽しみです。」とラウルさんが教えてくれました。仕事の疲れを自然の中でリセットできることが皆さんの笑顔の理由かもしれませんね！



浴衣で日本体験シヴァニさん



海で遊んでいるラウルさん！

ヘイディの気づきと学び



取材を通して感じたのは、鳥取県は“人の温かさ”があふれる場所だということ。れしぶさんのように、地域全体で支え合う環境があるからこそ、外国人職員も安心して成長できるのだと思いました。鳥取県の温かい人々、落ち着く環境にたくさんの笑顔が広がっていくことでしょう！



れしーぶ 社会福祉法人

鳥取県八頭町



社会福祉法人れしーぶ
外国人支援担当
れしーぶさん



ケアハウスぬくもり
施設長
田中さん



ケアハウスぬくもり
主任
漆原さん

Q：外国人を採用するとき大切にしていることは何ですか？

A：社会福祉法人れしーぶ 本部 外国人支援担当 れしーぶさん
鳥取県は自然が豊かで、いわゆる田舎の環境です。人によってはそれがプラスにもマイナスにもなるため、面接の段階からできるだけ詳しく、地域の特徴や職場環境、待遇について説明するようにしています。そうすることで、ミスマッチを防ぎ、より安心して働けるようになると思います。今の4名の育成で得た経験を、今後の外国人職員の育成にも活かしたいと考えています。

Q：ヒマンシュさんをはじめ、外国人職員と働いてみて感じたことは？

A：ケアハウスぬくもり 施設長 田中さん
ヒマンシュさんは、日本人以上に日本人らしいと感じる人です。初めての外国人職員の受け入れで不安もありましたが、彼の人柄と日本語力のおかげで、その不安はすぐに期待へと変わりました。例えば、誰かが荷物を持っていると、すぐにドアを開けて助けてくれるとか、そんな気遣いが自然にできる人です。一人で来日して同期がいない中でも、前向きで明るく、わからないことがあればすぐに質問してくれるので安心して任せられました。異国で働く彼らの姿勢に気づかされることも多く、日本人職員のいい刺激になっています。



未来への第一歩

4人に「これからの目標」を聞くと、全員が「日本で長く暮らしたいから、介護福祉士の資格を取得したい」と語ってくれました。そんな目標への第一歩を一人ひとりにお聞きしました。



ヒマンシュさんは「まずは目の前の仕事を完璧にこなせるようになりたい。利用者さんの信頼をもっと得たいです。」と真剣な表情で話します。周りに安心感を与える姿は、まさにチームの支えそのものだと感じました。

ラルワルさんは「介護の仕事は人の心に寄り添うことだと感じています。利用者さんの“ありがとう”の一言が、どんなに疲れていても力になります。」と優しく語りました。



みなさん、頑張ろう！



ヘイディの介護のポイントメモ

小さな気づきを大切に、相手を思いやることで心が近づく。そんな優しさが日々の仕事を支え、笑顔を生む力になっていました。鳥取県のあたたかさがそのまま介護の力になっていると感じました！

シヴァニさんは看護の経験を活かし、利用者さんを支えることを目指しています。「介護福祉士の資格を取って、もっと専門的に利用者さんの生活を支援たいです。」と話していました。



クリシュナさんは「最初は不安だったが、今はこの仕事が好き。毎日が学びで、自分の成長を感じます。」と語ります。チームワークを大切にしながら、利用者さんとの信頼関係を少しずつ築いているそうです。



4人は介護という仕事を通して、日本での生活を大切に成長していこうとしています。努力と笑顔が、これからの介護の未来を支える大きな力になると感じました！

Heidy's Diary!とは？

日本で働く外国人介護人材のリアルをご紹介します月刊紙！インドネシア出身のヘイディが実際の介護現場にお邪魔し、外国人介護人材のお仕事や活躍の様子を独自の目線でレポートします。



Profile

ヘイディ

自分と同じく日本が大好きな外国人にとって、もっともっと働きやすい国にしたい。みんなの幸せが私の幸せにも繋がる！



Instagram

「ケア・いろ」(care_iro) 外国人介護人材応援メディア Instagramもぜひチェックしてみてください！ 一生懸命更新してます！



取材 させて頂ける 介護施設様 大募集！！

外国人介護人材の採用・育成・定着に関する相談もお気軽にお問い合わせください！



ヘイディがお伺いします！
お問い合わせはこちら

こちらのメディアでも役立つ情報を発信中！

発行元：鳥取県 外国人介護人材支援事業事務局
(Zenken株式会社)
03-4212-2914 FAX 03-4212-2280
nc-support-tottori@zenken.co.jp



共に業界の未来を担う 外国人介護人材メディア

ケア・いろ

ケアいろ Q

